会　議　録

１　会議名

令和５年度第２回牧区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

○自主的審議事項（公開）

⑴あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

３　開催日時

令和５年５月２３日（火）午後７時００分から午後８時１０分まで

４　開催場所

牧区総合事務所３階　３０１会議室

５　傍聴人の数

４人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委　員：西山新平（会長）、飯田秀治（副会長）、池田幸弘、井上光廣、小黒誠、折笠忠一、坂井雅子、佐藤祐子、髙澤富士雄、清水薫、難波一仁、横尾哲郎

・イタヤ：梨本正昭

・事務局：牧区総合事務所　米川所長、小林次長（総務・地域振興グループ長兼務）、佐々木市民生活・福祉グループ長兼教育・文化グループ長、藤井地域振興班長、田中地域振興班主事（以下、グループ長はG長と表記）

８　発言の内容（要旨）

【小林次長】

・会議の開会を宣言。

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【西山会長】

・挨拶。

【米川所長】

・挨拶。

【西山会長】

・会議録の確認：坂井委員に依頼。

・それでは、自主的審議事項⑴あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」についてに入る。牧区地域協議会では、自主的審議において地域課題の抽出及び地域活性化を図るための施策立案に努めている。本日は、施策案の一つであるメープルシロップについて、イタヤの梨本氏より樹液の採取方法や製造・販売などの事業概要を説明いただく。

—進行手順の説明及び講師紹介—

・それでは、梨本氏より説明を求める。

【イタヤ　梨本氏】

・牧区がより豊かな地域となり、多くの方に住んでいただけるような地域づくりにつなげたいと思い、退職後にメープルシロップ作りを始めた。

・本日は、事前に地域協議会委員の皆さんからいただいた質問に沿って説明させていただく。まず、「動機」についてである。子どもの頃、両親から安定した職に就くことを勧められ、兄弟そろって公務員になった。冒頭で紹介いただいたように、最初は長野県の木曽谷に勤務し、天然の木曽檜を調査していた。その後、転勤を経て他県の様々な林を見てきたが、林業県は家のすぐ近くまで杉や檜が植えられており、１年中暗い印象である。一方で、広葉樹がある牧区は非常に明るく、環境が良い。広葉樹のある山は、様々な山菜やきのこが実り、木にとって環境が良く、住みやすい場所である。私は、牧区には宝がたくさんあると考える。それらを生かして地域づくりをするべく、１０年前から独学でメープルシロップ作りを始めた。３年前には村上市でノウハウを教わり、一昨年から販売を始めたところである。新聞社から周知いただいたこともあり、新潟市や長岡市といった遠方からイタヤへ来ていただいたこともあった。訪れた方は、景色を見て「牧区は非常に良いところだ」とおっしゃっていた。やはり、来てもらわなければその土地の良さは分からない。成功している地域は、外から来てもらう形で商売を行っていることから、私もそのような形で商売をしていきたいと考える。最終的に、採取を始めた動機としては、牧区を何とかしたいという思いが強い。もち

ろん、後継者がいることが一番だが、気づいた時に取り組まなければ後世に何も残らない。そのため、現在は植えることに力を入れている。

・次に、「樹液の採取方法」である。樹液の取れる時期は、２月の始めから終わりまでである。イタヤカエデは自分の身を寒さから守るため、夏から秋にかけて木の中に樹液として糖分を蓄える。２月の寒さが少し弱まった頃、糖分が緩んでくるタイミングを見計らって１２ｍｍのドリルで深さ３ｃｍ程度斜め上に穴を空ける。穴を下向きに空けてしまうと、雨水がたまり、木が腐る恐れがあることから、雨が外に出るように斜め上に空けることがポイントである。そこへニップルというプラスチックを打ち付けて、１２ｍｍの柔らかいホースをつけ、２０Ｌのポリタンクに誘導する。その際も雨水が入らないようにビニール袋とガムテープを用いる。加えて、雪が解けた際にポリタンクが下がってホースが外れないよう、ある程度余裕をもって固定させる。

・樹液が多く出る木は３、４日で２０Ｌのポリタンクが満タンになるが、少ない木は１０Ｌにも満たない場合がある。また、樹液の量はイタヤカエデの生育場所によっても異なり、日当たりの良い場所よりも北向きの林の方が樹液が多く、糖度も高い。濃度も、最初は濃いがあとになると薄くなる。

・遠い場所での採取はかんじきを履き、雪上にソリを滑らせて樹液を運ぶが、２０Ｌのポリタンク５本分は１００ｋｇに相当し、体力的に厳しい面もある。苦しいことはしたくないが、やはりおいしいメープルシロップを食べられないのはもったいないという思いの方が強い。

・続いて、「苗づくりのポイント」である。種を植えることは難しいため、大きなイタヤカエデの下に出ている稚樹を使用する。根が傷むことを防ぐため、引き抜かずにまわりを直径３０ｃｍ程度掘って稚樹を掘り取ることがポイントである。

・続いて、「どのようにイタヤカエデの木を見つけているか」である。秋になると葉が黄色く染まるため見つけやすい。また、木の幹がピンクがかっていることや葉が向かい合って１本の枝に対生して生えることも特徴である。

・次に、「販路の見通し」である。まずは牧区の土産品としてご利用いただきたい。そのためには、牧区の方に味を知っていただく必要がある。今年４月、沖見のお花見会で訪れた方にメープルシロップを試食いただいた。今後も、祭りなどの行事に試食の機会を設けていきたいと考えている。

・続いて、「販路はどのように開拓したか」である。現在、大口の業者に卸すようなことは考えていない。口コミなどで徐々に広げ、まずは新潟県内の人に味わっていただきたいと考えている。

・次に、「行政・地域協議会への要望」である。区内を車で走行していると、道路沿いにせり出している木が見受けられる。行政からそれらの木を整備いただくことで、イタヤカエデの木を植えたい。将来的にはイタヤカエデの並木を作りたいと考えている。また、区内には転出された方が残した廃屋が点在している。それらの地主と連絡を取って土地を整備いただき、イタヤカエデを植えたいと考える。土地を有効活用していけば、また住みたいと思う人が現れるかもしれない。

・地域活性化を担う組織である地域協議会からは、住民の皆さんに周知をお願いしたい。イタヤカエデだけではなく、山菜やきのこなどの副産物といった、一年を通して収入源となる山の体系が必要である。例えば、春はギョウジャニンニク、夏はミョウガ、秋はギンナンが挙げられる。現在、最も考えているのはシイタケである。また、昨年はカリンを煮詰めたジャム作りに取り組んだ。あらゆる方策を駆使して収入源につなげていきたいと考えている。

・次に、「今後の取組」である。「イタヤカエデが儲かるとなると、他の地域でも始めたり大きな資本が参入するかもしれない。そのことに対して、牧区が産地として優位になる方策を教えていただきたい」について、昨年、牧区を訪れた方に採取方法を教えたところ、原液を４千Ｌ採取したとのことだった。共用林野に多く自生していたとのことだが全体量自体少ないことから、現段階で他の地域で始めることや大きな資本が参入することに対して心配はしていない。

・続いて、「メープルシロップを使った加工品・製品の作成、販売の予定」である。イタヤではメープルシロップだけでなく、イタヤカエデの原液も販売している。イタヤカエデの樹液にはマグネシウムやカルシウムなど、様々なミネラル分が含まれている。メープルシロップを煮詰めた際に結晶化した沈殿物を活用し、健康的なお菓子などを販売できれば良いと考えている。

・最後に、私はとにかく牧区に人を呼びたいと考えている。昨年、牧小学校の子どもたちが樫谷集落にイタヤカエデの木を植えた。木を植えた場所は景観が良く、星空観測やキャンプにも適している。地元の方から具体的な活動内容も提案いただいた。今後、

市の予算獲得に向けて、皆さんから協力をいただきながら実現につなげていきたいと考えるので、よろしくお願いする。

【西山会長】

・今程説明のあった件について、追加で質問や意見等はないか。

【佐藤委員】

・自宅の裏にイタヤカエデが数本あり、実際に樹液を煮詰めたところ、ガスや電気などかなりの燃料代を消費した。製品にするための具体的な煮詰める時間などを教えていただきたい。

【イタヤ　梨本氏】

・灯油を用いたサロンヒーターを５台使用し、２０Ｌのアルミの寸胴で夜中から朝方まで煮詰めている。ガスや灯油など、とにかく燃料代がかかる。本来であれば薪ストーブが望ましい。また、他県のように規模が大きくなれば施設を整備する必要がある。そのような先進地に視察に伺いたい。

【難波委員】

・説明の中では、胸高直径３０ｃｍ以下の木からは採取しないとのことであった。一般的には若い木の方が樹液が多く出ると思われるが、いかがか。

【イタヤ　梨本氏】

・木の体積が大きければ、多くの樹液が出る。

【難波委員】

・老木でも樹液が出るということか。

【イタヤ　梨本氏】

・そのとおり、老木も生きている。杉は木の周囲だけ水が通るが、イタヤカエデは木全体に水が通ることから、樹液が多く溜まる。木の質自体が異なる。

【髙澤委員】

・苗木についてお聞きしたい。説明の中で自生している稚樹を植えるとのことだが、先日イタヤカエデの傍にたくさんの稚樹が自生しているのを見た。それらを取ってきて、自分で植えることも可能ということか。

【イタヤ　梨本氏】

・そのとおりである。場所によっては、集団で自生している。

【髙澤委員】

・イタヤカエデの木からかなり離れた場所に自生しているのを見た。

【イタヤ　梨本氏】

・種にプロペラがついていることから、イタヤカエデから離れた場所にも稚樹が自生する。

【難波委員】

・畑に植え替え、ある程度育ててから植樹する方法も考えられるが、いかがか。

【イタヤ　梨本氏】

・良いと思う。

【折笠委員】

・私も興味を抱き、樹液の採取を行っている。自宅の薪ストーブで１週間程樹液を煮詰めたところ、メープルシロップらしきものが完成した。出来上がったメープルシロップとオニグルミを親族に渡したところ、パウンドケーキとクッキーを作ってもらいとてもおいしかった。メープルシロップを使用した製品などは考えていないのか。

【イタヤ　梨本氏】

・加工できる方がいれば一番良い。樹液をある程度煮詰めたら、コーヒーフィルターで余分なものを取り除く必要がある。

・他県にも私と同じ思いを持つ方がおり、サトウカエデを植えて一大産業にしたり、別荘を誘致して地域づくりをしたいと話していた。そのようなつながりを持つことができ、大変うれしく思う。

【西山会長】

・時間となったので、ここで終了とさせていただきたい。また、今程の説明を受けて、今後メープルシロップを用いて地域活性化に取り組んでいくには何をすべきか、各委員の意見をお聞きしたいことから、次回の地域協議会までに考えを整理いただきたい。続いて、その他連絡事項について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

・各区の「地域活性化の方向性」について（和田区、大潟区）

・４区地域協議会委員合同研修の開催について

・令和５年度地区懇談会の開催について

・地域自治の推進に向けたヒアリング調査の実施について

【田中主事】

・「牧区地域協議会だより（第５８号)」６月２５日号発行について

・次回地域協議会の開催は６月２０日の火曜日、午後６時３０分からとする。後日、案内文を送付するため、出欠についてご報告いただきたい。

【西山会長】

・他に意見を求めるが発言がないため、飯田副会長に閉会のあいさつをお願いする。

【飯田副会長】

・会議の閉会を宣言。

９　問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ　TEL：025-533-5141（内線 147）

E-mail：maki-ku@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。